

学習

No. 213

アトピーの原因

アトピーとはギリシャ語のアトポス (atopos; a=不特定 topos=場所、即ち場所が特定できないという意味) からきています。その症状は体の表面のあちこち、特定できないところに現われるからです。その原因は今までいろいろ取り沙汰されてきました。1、細菌説 2、遺伝説 3、栄養要因説 4、環境要因説など。

そして近年、アメリカでは体内の細菌による、という研究が発表されましたが、この6月、広島大学大学院・歯歯薬保健学研究科の秀道教授らの研究チームが「Journal of Allergy and Clinical Immunology」誌のオンライン版に発表した論文によると、アトピー性皮膚炎はその患者の皮膚に常駐するカビ「マラセチア」の一種が出すタンパク質だと特定しました。

一般には、アトピー性皮膚炎は「先進国にしかない」とか「ダニが原因」とかいろんな説が流布していますが、決定的な原因特定はできないままに現在に至っています。一般には昨今は症状が重い場合はステロイドで治療するのですが、長期にわたって使うと副作用が大きいので決め手とは言い難いものでした。

かゆみとは皮膚への弱い刺激のようなもので、その刺激の原因となるのが汗に溶けたカビのタンパク質であると秀道教授らが特定したのです。つまり汗に溶けたマラセチアのタンパク質が原因だとしたのです。よってこれからはマラセチアを如何に消毒し、退治するかが課題になってきます。

しかし、それは簡単な解決策があるものではありません。お風呂掃除のようにカビとりスプレーをかけてしばらく待つだけでカビが消えていくものではないのです。皮膚に常駐している、即ち、いつもそこにいるということはそこでなんらかの役割を担っているのかも知れないし、他の菌やカビと共存しながら生態系のバランスを保っているのかもしれないのです。それほど生物の体の諸要素のバランスは奇妙に釣り合っているのです。

とはいえ、アトピー性疾患の患者さんにとってはかゆみの元をなんとか早く取り去って欲しいのが切実な願いです。そこでマラセチアが分泌するたんぱく質が体内に入ってアレルギー反応を起こさないようにブロックする方法が研究されることになります。タンパク質が「鍵」で「鍵穴」に差し込まれるとアレルギー反応を起こし、アトピー症状になる、さすれば偽の「鍵」を作って先に「鍵穴」に差し込めばマラセチアが出したタンパク質はもうどの「鍵穴」にはまるることができない、よってアトピー反応は起きないという理屈になります。「偽の鍵入り」塗り薬が開発されれば一件落着ということになるかもしれません。長年、アトピー性皮膚炎に悩まされてきた患者さんとその家族

にはこの上ない朗報になるでしょう。

しかし、広島大学の先生の研究発表だけが一切のアトピーの解決になるとは思えません。アトピー性皮膚炎の8割は汗が悪化の要因ということも判っているのです、いろいろな症状にも対応できるか、が課題となるでしょう。汗が要因でも今回特定されたタンパク質以外に何かあるかも知れません。しかし、こういう研究の発表があると、科学と医学、医療と医薬の進歩、発展はまだまだ余すところが沢山あることに気づきます。

ステロイド

前述のアトピーにステロイド、とはよく聞く療法です。そのほか、リウマチにもよく用いられますが、最近ではガン末期にもステロイド、というのを聞くようになりました。

もともとステロイドは強力な抗炎症と免疫抑制作用があり、少量の使用で急速に緩和します。しかし、副作用を考えると積極的に用いるべきか、避けるべきかいまだに医療界でもコンセンサスを得られていません。長く服用したときの副作用としては高血圧症、骨そしょう症、白内障、緑内障など沢山挙げられます。

それは体外から投与すると体内でステロイドを作る機能[副腎機能]が働かず、低下するからです。そこで服用を止めると危険な状態になることがあるのです。

さて、末期のガン患者が訴える痛みや体のだるさなどに免疫作用のあるステロイド薬の効用とはどういうことなのでしょう。それはガンの緩和ケアで広く使われている医療用の麻薬では対応できない苦痛を取り除き、患者の生活の質(Quality of life=QOL)を高めるには目下、非常にふさわしいと判断されたからのようです。

ただ、このステロイドのおかげで体調がよくなったというので抗がん剤治療を無理に再開し、体に大きい負担をかけないことが注意すべきことのようにです。

... ..

『あとがき』1) 総合待合室の「ミニギャラリー」は11月、12月は宮川浩子さん(若狭町堤)の油絵でしたが12月28日からは内藤利博さん(若狭町兼田)の油絵です。同じくつばな会>松宮昂先生門下の作品です。大作「新緑の日向(ひるか)湖」の写生画に惹きつけられます。2) この11月、中山茂樹院長は還暦を、そのご母堂中山昭子様には米寿を迎えられました。なんともお目出度い限りです。ご両人の今後ますますのご健康とご活躍をお祈りします。3) 今年は伊豆大島の台風による土砂災害を初め、世界で異常気象が目立ちました。来年はどうか平和で穏やかな年でありますように。よいお年を!